

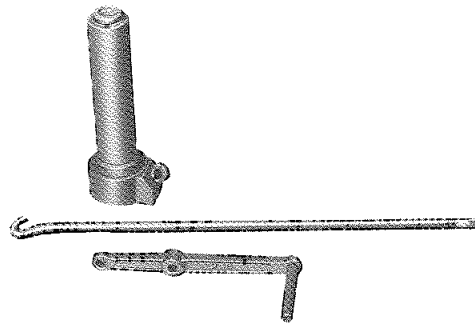
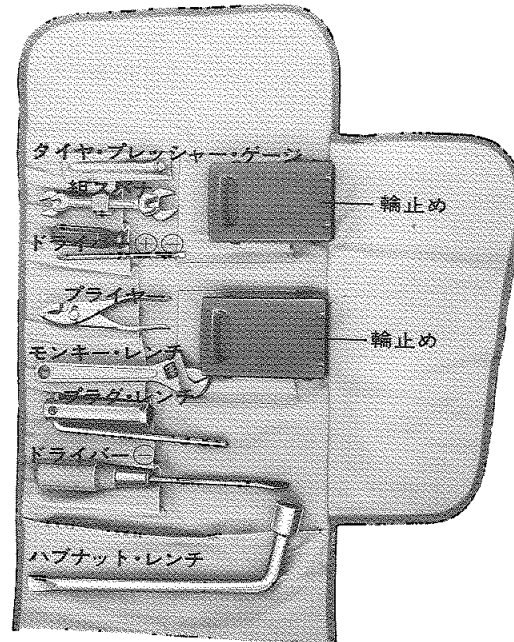
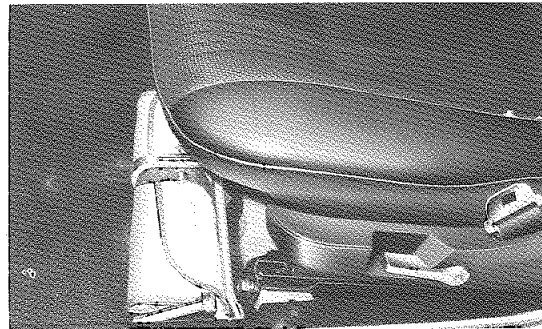
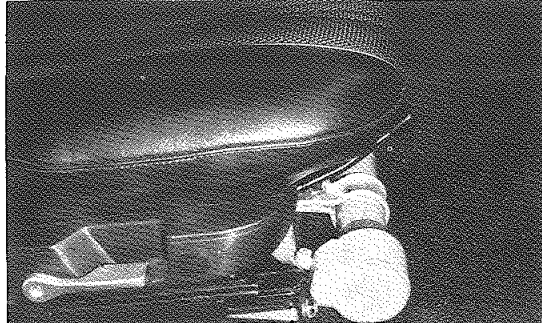


車の簡単な手入れと処置



工具とジャッキ

工具とジャッキは、フロント・シートの下に格納されています。



冷却水の交換

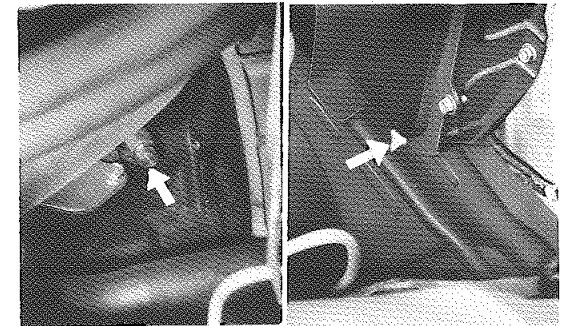
マークII車には、必ずロングライフ・クーラントをご使用ください。

キャッスル・ロングライフ・クーラントは、冷却水と不凍液とを兼ねていますから、四季を通じて使用でき、2年または40,000kmまで交換する必要はありません。

使用中は、3カ月毎に点検し、30%(寒冷地は50%)濃度を維持するよう努めてください。

冷却水の交換

- 1 = エンジン・ドレーン・プラグをはずす。
- 2 = ラジエーター・ドレーン・コックをはずし、ラジエーター内を洗浄します。



- 3 = エンジン・ドレーン・プラグを取りつける。
- 4 = ラジエーター・ドレーン・コックを取りつける。

〈注意〉

1. 冷却水を補給する場合はラジエーター内の冷却水と同程度の濃度のものを補給してください。

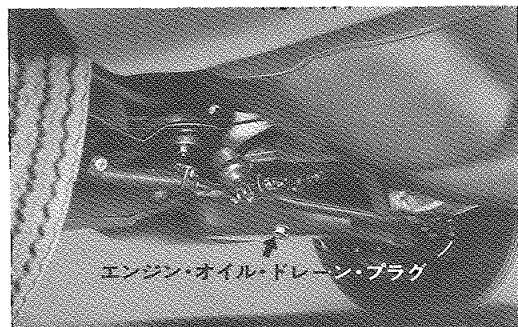
ラジエーター内濃度……30%(凍結防止温度-17℃)

寒冷地では濃度……50%(凍結防止温度-40℃)

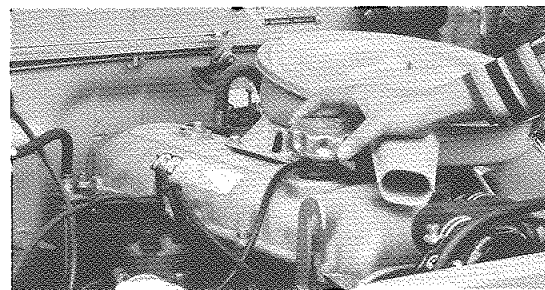
- 2 新車および冷却水交換の場合は、エンジン内に空気が残り走行 1,000km程度までは冷却水の減少が見られますが、異常ではありません。走行 1,000km程度で点検・補給してください。

エンジンオイルの交換

- 1 =エンジン・オイル・ドレーン・プラグをはずす



- 2 =エンジン・ドレーン・プラグを取りつけ、オイル・ファイラー・キャップをとりはずしオイルを注入する。

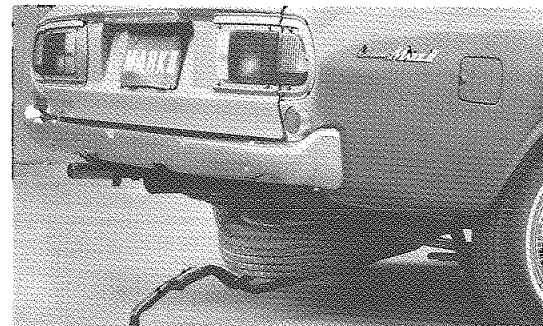


オイルはトヨタ純正キャスル製品をご使用ください。

■パンクの処置

車を道路の左はしによせて

- 1 =工具、ジャッキ、スペア・タイヤをとり出します。
2 =スペア・タイヤの取り出し方

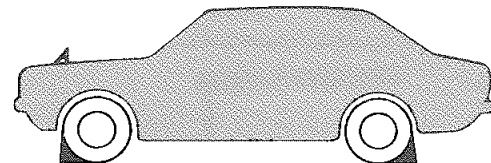


ハンドルを起こしてフックからレバーをはずします。

スペア・タイヤ・キャリアをそっとおろし、スペア・タイヤを取り出します。

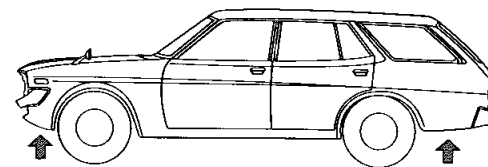
(盗難防止のため、錠前などで施錠することもできます。)

- 3 =輪止めをします。



左側パンク時……右側前後のタイヤ
右側パンク時……左側前後のタイヤ

- 4 =ジャッキがはずれたときの危険防止のため、スペア・タイヤをパンクしたタイヤのボデーの下に置きます。
5 =ホイール・キャップをドライバーではずしません。直接ホイール・キャップに指をかけて引くことはやめてください。
6 =ジャッキをセットします。

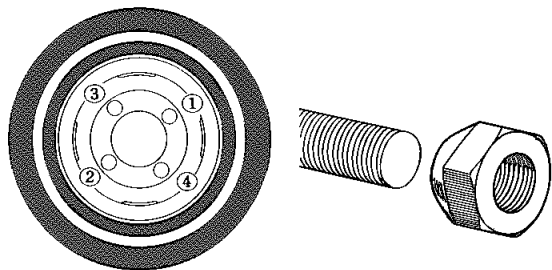


交換する車輪に近いサイド・メンバーにジャッキをセットします。サイド・メンバーの前端、後端にジャッキの受けがあります。

- 7 =タイヤが、がたつかない程度にハブ・ナットをハブ・ナット・レンチでゆるめます。
8 =タイヤと地面とが少しあくまでジャッキ・アップします。



- 9 = ナットをはずします。
- 10 = タイヤをとりかえます。
- 11 = タイヤがガタつかない程度にナットを締めます。このときナットの方向をまちがえないように確かめましょう。



- 12 = ジャッキをはずします。
- 13 = ナットを確実に締めつけます。
- 14 = タイヤの空気圧を正規にします。
- 15 = タイヤの空気口にキャップの穴を合わせホイール・キャップをとりつけます。
- 16 = 工具をもとにもどし、パンクしたタイヤは、すぐ修理しておきましょう。

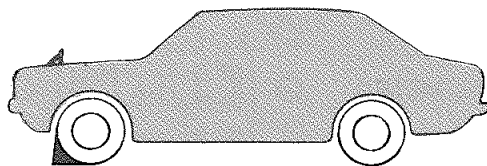
タイヤ チェーン

■タイヤ・チェーン

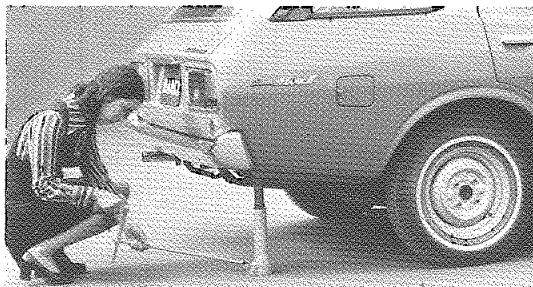
タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

〈取り付け方〉

1 = 前2輪に輪止めをします。

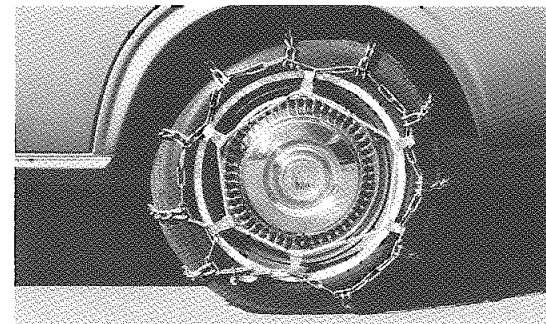


2 = 後輪をジャッキ・アップします。

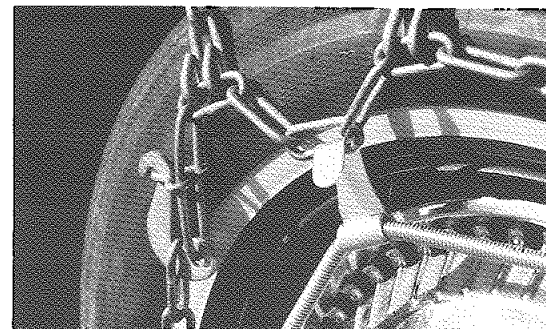


3 = クロス・チェーンの折り曲げを外にして後輪にかぶせます。

4 = チェーンの両端を連結します。チェーンが余ったときは針金で結びます。



5 = チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンをひっぱります。



6 = ジャッキをはずします。

〈取りはずし方〉

チェーン・バンドをはずし、内側クリップを先にはずします。

スベア・タイヤにタイヤ・チェーンを取り付けてからタイヤ交換をすると簡単にできます。

ヒューズ、ランプ類の交換

〈故障のしらべ方〉

運転席右足もとのヒューズ・ボックスのカバーにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。

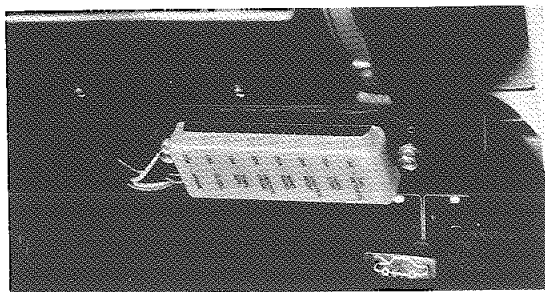
そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズきれと考えられます。

1つだけ作動しないときは、ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

配線に不具合のある場合はサービス工場で点検を受けてください。

〈ヒューズの交換〉

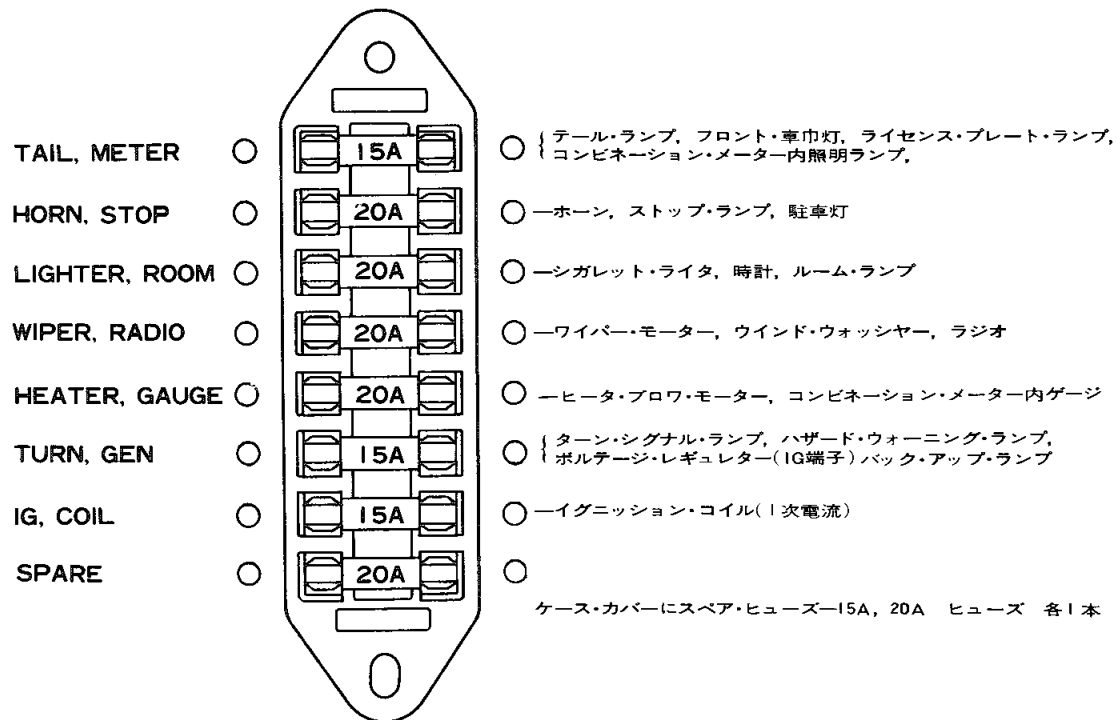
1=ヒューズ・ボックスのふたをとります。



2=ヒューズをはずします。

3=切れたものと同容量のヒューズを交換します。

何度もヒューズが切れる場合は、針金、銀紙等を使用しないで、サービス工場で点検を受けてください。



■断線したヒューズを発見するための一覧表

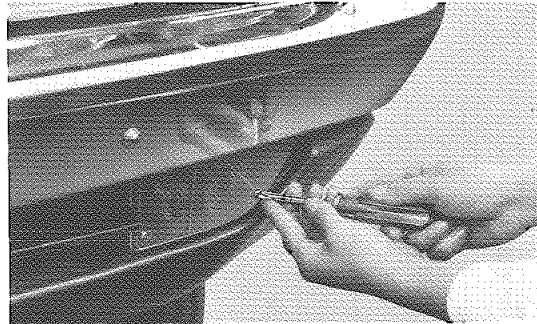
不具合箇所 (点灯作動 せず)		テ ー ル ラ ン プ	フ ロ ン ト の 車 巾 灯	ラ イ セ ン ス ブ レ ー ト ラ ン プ	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ 内 照 明 ラ ン プ	ホ ー ン	ス ト ッ プ ラ ン プ	駐 車 灯	シ ガ レ ッ ト ラ イ タ ー	時 計	ル ー ム ラ ン プ	ワ イ パ モ ー タ ー	ウ イ ン ド ウ ォ ッ シ ャ ー	ラ ジ オ	ヒ ー タ ブ ロ ワ モ ー タ ー	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ 内 ゲ ー ジ	バ ッ ク ア ッ プ ラ ン プ	タ ー ン シ グ ナ ル ラ ン プ	ハ ザ ー ド ウ ォ ー ニ ン グ ラ ン プ	ボ ル テ ー ジ レ ギ ユ レ タ ー (I G 端 子)	イ グ ニ ッ シ ヨ ン コ イ ル (一 次 電 流)	
TAIL. METER	15 A	○	○	○	○																	
HORN. STOP	20 A					○	○	○														
LIGHTER. ROOM	20 A								○	○	○											
WIPER. RADIO	20 A											○	○	○								
HEATER. GAUGE	20 A														○	○						
TURN. GEN	15 A																○	○	○	○		
IG COIL	15 A																					○
SPARE	20 A																					

■ランプの交換
フロント

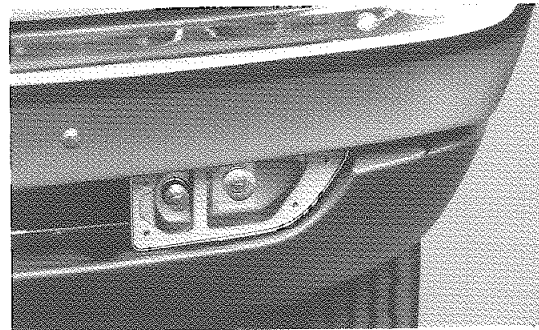


- 1 = サイド・ターン・シグナル・ランプ
- フロント・ターン・シグナル・ランプ
- フロント・パーキング・ランプ

①ビスをはずします。

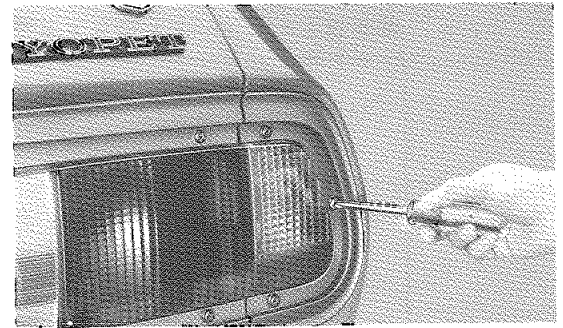


②ランプは押して左にまわしてははずします。

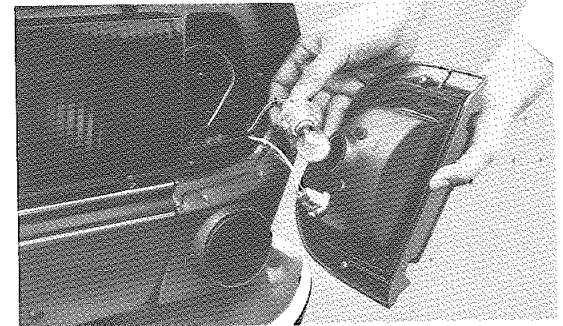


- 2 = リヤ・コンビネーション・ランプ

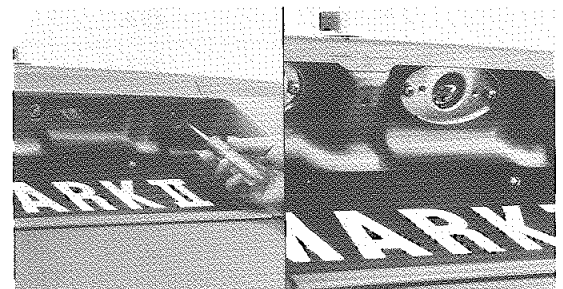
①ビスをはずします。



②ランプ・ソケットを左にまわしてははずします。



- 3 = ナンバー・プレート・ランプ

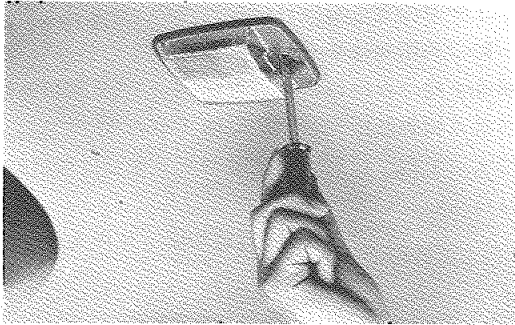


リヤ

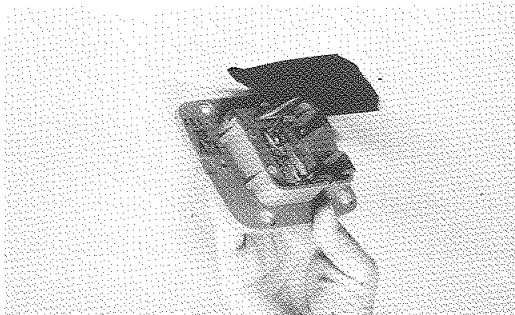


4 = ルーム・ランプ

①スイッチをOFFにしてビスをはずします。



②ランプは、ひっぱってははずします。



- ターン・シグナル・ランプ.....23W
- パーキング・ランプ.....3.4W
- ストップ&テール・ランプ.....23/8W
- バック・ランプ.....23W

〈注意〉

ダブル・フィラメントの電球は、方向性があります。電球のボッチの位置にご注意ください。

けん引について

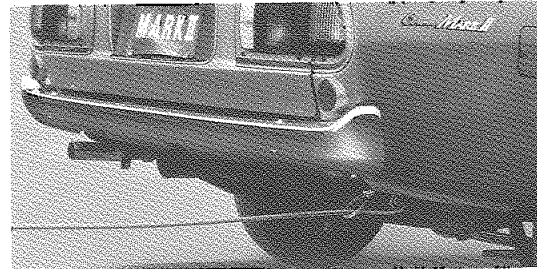
〈けん引ロープをかける位置〉

フロント

けん引フック(オプション)を取りつけてください。けん引フック以外には、絶対ロープをかけないでください。



リヤ



〈けん引のしかた〉



けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけましょう。

塗装の手入れ

車を美しく保つには、日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボデーのほこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面が汚れたときは、なるべく早く洗車をし、汚れのひどいときは洗剤を使用しましょう。また塩分が付着したときは必ず洗車しましょう。ワックスがけは適時、ボデーにつやのなくなったとき行なってください。

〈洗車方法〉

- 1 = 下まわりを洗いましょう。
- 2 = スポンジかセーム皮で水量をたっぷりにして洗いましょう。
- 3 = 汚れのひどいときは、必ずカーシャンプーを使用してボデー温度が体温以下になってから洗いましょう。
- 4 = 塗面に、はん点が残らないよう充分水分をふきとりましょう。

〈ワックスがけ〉

- 1 = 1カ月に1度または水をはじかなくなったとき行なってください。
- 2 = 使用方法はワックスに記されていますからよく読んでお使いください。
- 3 = ワックスがけはボデーが体温以下になってから行なってください。高温では塗装面が柔らかくなっていますからしみになる恐れがあります。